第３回協働のまちづくり推進計画検討委員会　会議録

日　時	令和２年８月３１日（月）９：５８～１２：２０
場　所	中部ふれあいセンター１階　多目的ホール
出席委員	青柳委員、髙徳委員、明石委員、秋元委員、瀬良委員 田中委員、西澤委員、林田委員、山本委員、岡委員 佐藤(智）委員、宮本委員、小出委員、佐藤(恭)委員
欠席委員	
アドバイザー	関谷　昇　氏（千葉大学大学院　社会科学研究院教授）
事務局	市民活動推進課 髙嶋課長、佐藤主査、大木、岩井
傍聴者	なし

[会議次第]

１　開会

２　委員長挨拶

３　議題

⑴　第１次推進計画・後期実行計画の取組から見えた課題及び新たな課題を解決するための改善策について

⑵　各グループ発表・全体共有・意見交換について

⑶　関谷教授によるアドバイス

４　その他

５　閉会

[会議概要]

事務局	それでは、次第３議題に入ります。 進行につきましては、「協働のまちづくり推進計画検討委員会の設置及び運営に関する要綱」第６条の第１項により、委員長に議長をお願いします。 山本委員長、よろしくお願いします。 議題 （１）第１次推進計画・後期実行計画の取組から見えた課題及び新たな課題を解決するための改善策について
委員長	これより、議題（１）第１次推進計画・後期実行計画の取組から見えた課題及び新たな課題を解決するための改善策について、事務局から説明をお願いします。
事務局	―事務局より説明―
委員長	ただ今、事務局から説明がございました。 このことについて、御質問等ございましたら、お願いします。 ―質問なし―
委員長	それでは、関谷教授から、グループワークを進めるに当たってのポイントがございましたら、お願いいたします。
アドバイザー	会議としては前回の続きとなるが、どういうところに課題や問題があるのか、どのようにそれらを克服していかなければいけないのかという視点で、議論いただく。 事務局がまとめた資料で、情報はある程度共有できているかと思うが、現状の課題やこれまで取り組んできたことで、どういう部分ができているのかいないのか、この部分を踏まえて、課題をどう克服していけばいいのか、アイデア出しをお願いしたい。 全体を通じて念頭に置いておいていただきたいのは、それぞれ４つの項目について課題や問題があるのだが、誰が取り組むべきなのか、どのように取り組むべきなのかということを、できるだけ具体的にアイデア、イメージを膨らませていただきたい。

	どこに任せておけばいいというのでは現状は動かない。 行政、地域、市民、企業と色々な立場があるが、具体的に誰がどのようにやっていけばいいのか、どんな連携を基にそうした動きを作り出していけばいいのか、ここをぜひ膨らませていただきたい。 この連携の中身という部分も色々あり、必要とする部分も色々ある。この部分に関しても意見をいただきたい。 項目として見れば、環境づくりの部分では、これからの協働のまちづくりを進めていく上での橋渡し環境の部分の現状がどうなのか。どのように強化したら、より多くの人が繋がってくるのか。端的に言えば、まだまだ繋がりというものが足りていないのが現状である。世代を超えた繋がり、団体同士を超えた繋がり、分野を超えた繋がりなどもそうであり、子育て支援の活動と高齢者支援の活動が、まだまだ結びついていない状況である。どのようにしたら色々な世代が交わることができるのか。 そういったことをイメージしながら、サポートセンターはどのような役割を果たせばいいのか、その他にも、どういう人達がどういう役割を果たせば、繋がりというものが生まれてくるのか。こういったイメージを、それぞれの立場から出していければいい。 活動資金の部分に関しても、行政の補助金頼みであったりする。これからは税金を使うということだけではなく、寄附というものをはじめ、色々な形でお金を出し合って活動を応援していくというような、新たなお金の流れというものも模索されている。どのようにしたら活動に必要なお金が集められるのか、活かせるのか、論点として考えていただきたい。 また、ネットワークというものもずっと言われているが、どのようなネットワークが求められているのか。ネットワークの種類ややり方も様々だが、どの方法が正しいのかという部分にイメージを膨らませていただきたい。 担い手づくりの部分では、サポートセンターによる人材育成という部分も大きな課題である。 また、様々な学びの場というものが計画に基づいて進められてきたが、まだまだ不足していて、参加者が増えていかないという課題がある。学びの場というものは行政が色々作ってきていたり、地域でも学びの場というものはある。学びの場というものは開かれているが、そういったところで学んだ人達が、実際に地域の活動に流れているのかどうか。十分に流れていないとするならば、学んだ人達

	がどういう理由で足踏みしてしまっているのか。地域の現場では高齢化が進み、担い手となる人を必要としている。活動の持続性を考えるのであれば、より多くの人達が関わっていかなければいけない。それなりに関心があるのだが、実際には結びついていない。どのような繋ぎをしていけば、潜在的に関心のある人達が、実際の活動に携わってくれるのか。こういった部分も大きな課題である。 学びの場ということと、実際に学んだ方達が色々なところに入っていける、そういう橋渡しも含めてどのような環境や繋ぎがあったほうがいいのかを考えていただきたい。 情報の共有という部分では、前回でも申し上げたが、協働のまちづくりに携わる人がなかなか増えていかない、連携が広がっていかない。それは関心がまったくないということだけではなく、潜在的には関心があるのだが、関心を持つに至るまでの情報を十分に共有できていない可能性がある。だから、傍から見れば無関心かのように見える。逆に言うと、情報というものを共有できるような環境があって、自分なりに入れられる情報や考えるきっかけなどがあると、関心を膨らませて、自分なりに関わる動きに繋がっていく。そのような情報共有ができていないと、色々な課題も知らないままになってしまう。 情報の共有のされ方、掘り下げの在り方なども含めて、情報というものをまちづくりの中でどう捉えていけばいいのか、アイデアなど御提案いただきたい。 多くの地域活動が多くの場所であるが、それらが知られていないのが現状。それらが知られていないから、その活動に関わろうとする人も少なくなってしまう。そういう色々なところで、色々な形で展開されている取組をどういう風に伝えていけば、自分の事として捉えるようになるのか。様々な情報ツールがそれなりに使われているが、それだけでも伝わりきらない現状がある。ましてや、市民の情報を市民が知るためには、どのようなやり方があるのか。そういった部分もぜひ深堀りしていただきたい。 市政への参画の部分では、市民と行政との関係をどうしていけばいいのか。従来は住み分けがはっきりしていたが、これからの行政活動は、資源という部分についても、これまで通りのことをこれまで通りに維持できるとは限らず、物理的にできることが減っていってしまう。そういった中で、本当に行政がどういうところでどういう力を入れていくべきか、この模索が今現在始まっている。そうい

	ったものはすぐに答えが出せるわけではなく、だからこそ市民とやり取りをしながら、どこでどう担うのかを見分けて捉えていく必要がある。 　市民が連携してやる部分、行政が積極的にやる部分、それを確かめる場というものもあるようでない。これが協働のまちづくりがなかなか進んでいない原因と言われている。 　市民と行政がどういった関係であるべきなのか、どんな場面でどんなやり取りをすることが求められていくのか、ぜひ富里らしい両者の関係性を作っていっていくことを期待されていると思うので、参画の仕方や仕組みを検討いただきたい。 　それらを念頭に踏まえて、皆様が考えてきていただいたものをグループ内で共有して、改善策を考えていっていただきたい。
委員長	ありがとうございました。 　それでは、ポイントを押さえたところで、各グループで話し合いを開始したいと思います。 　グループワークは、１１時１０分頃までを目安にしてください。 　市民活動推進課の職員は、グループ内の進行を務めてください。 　では、グループワークを開始しましょう。 －グループワーク－
委員長	では、時間となりました。 　それでは、これから１０分間休憩を取ります。 　発表する方は、グループ内で話し合った内容のまとめをしていただき、発表の準備をしておいてください。 －休憩－
委員長	それでは、これより、グループごとに話し合った結果を発表していただきます。 　各グループの発表の後、発表に対し皆さんから他の視点などで提案などがあれば、いただきたいと思います。 　そのあと、関谷教授から発表内容についてのコメントをいただき、次回の方向性が見えるようにしていきたいと思います。 　発表は、１グループあたり２分程度でお願いします。

	それでは、環境づくりグループよりお願いします。
Ａ委員	－環境づくりグループ発表・意見交換－
委員長	発表ありがとうございました。 今の発表に対して、他の点など、何か提案などありますでしょうか。 －その他特に意見なし－
アドバイザー	協働のまちづくりを推進する課の充実の部分では、この１０年間で担当課も立ち上がって、役割も明確になってきている。今後の課題としては、市民向けにどう機能していくか、もう一つは役所内でどう機能していくのかということが問われている。市民に対してという部分では、今出た通り、地域担当職員制度というものが注目されている。 香取市で制度設計などに携わったが、職員が決まった地域に張り付く。人事異動しても担当する地域は変わらず、ひとつの小学校区単位に５、６人が担当になり、交代で地域の行事や取り組みに参加し、情報提供や橋渡し的な役割を担っている。行政との関係をより密にしていくという上で、役割を入れていくということは非常に可能性のある手法である。 同じように役所内でも協働をめぐってどんな連携ができるのか、縦割り組織という壁がありなかなか難しいが、協働担当職員を各課に配置し、定期的に会合を重ねるなどし、中堅、若手でやれるようなことを出しミーティングを重ね、事業化を図る。あるいは、部課長クラスで横断的な組織を作って、協働という視点からの連携を検討していく。そういう役所内の横断というものも今後の課題である。 また、サポートセンターについても、より身近なものにしていけるかどうか。富里市のサポートセンターは、市民とうまく情報交換していたり、事業も企画したりして、市民参画を促している。今後もその取り組みをさらに充実させていけるかが大きなポイントである。 多くのサポートセンターが立ち上がっているが、停滞しているところも多いのが現状。それは特定の団体しか利用しないとか、会議

	室化しているとか理由があるが、もっと提案型にして色々な人を巻き込んで繋いでいくという機能性を高めていくことが大事である。 　あとは市民の中にどういう風にしたら定着していくのか、深掘りを図っていただきたい。個人的に考えているのはサポートセンターが市内でネットワーク化していくことである。学校の中に、ミニ拠点などのようなものがあって、子供たちもネットワークのようなものと繋がっていける。あるいは自治会のような地域の組織などとも密な連携を図って、情報が得られ、色々なところから関わっていけるといった、市民にとって身近なところからサポートセンターに入っていける、繋がっていけるネットワークというものが作られていくのも一案であり、検討が必要。 　また補助金やネットワークという部分では、年度ごとに計画を立てて、それぞれがどのような役割を果たしていくのか。 　流行りの手法としては円卓会議方式というものがあって、色々な立場の人が自己完結するわけではなくて、共通する課題と共通する目的をみんなで考えて、協力できることを持ち寄り、横断的な動きというものをしていけるよう、今までの活動に加えて、可能性を生み出していけるものである。 　連携してできる事というものを膨らませて考えていける機関、場所が大事になってくる。補助金の部分でも出ていたが、連携するところに補助金を出していけるかどうかが問われている。 　今の補助金は団体の個々の活動にしか補助金がいかず、そこで活動が止まってしまう。連携する事業に補助金が行くような仕組みができるといい。連携というものを本格的に考えるのであれば、そういう補助金の在り方、それを後押ししていけるような寄附、基金のあり方も考えていけるといい。 　他にも課題は色々あるが、様々なものを繋いでいけるような環境づくり、ネットワークづくりが大事になってくる。
委員長	ありがとうございました。 　それでは、担い手づくりグループの発表をお願いします。
Ｂ委員	―担い手づくりグループ発表・意見交換―
委員長	発表ありがとうございました。 　今の発表に対して、他の点など、何か提案などありますでしょう

	か。 ーその他特に意見なしー
アドバイザー	今の話の中で、大事だと思った事は、サポートセンターの方々が地域に出向いていくという部分は、非常に大事な視点であって、一般の市民感覚からすると地域活動というものがどんなものなのかわからない。 また、どういうところで、どういうことが必要とされているのか知らない。 もっと具体的に必要な情報、モノが見えてくれば、それに対して具体的に自分で考えることができる。 そういう具体的な情報がまだまだ足りていないというところがあって、担い手が増えていかないという現状がある。 そういうことを具体的に伝えていく、地域に入っていって必要なものを伝える、マッチングしていくということも大事。 一方では、こういうことをやりたい、自分の持っているスキルをまちづくりに活かしたいと思っていても、どこでどう活かしたらいいのかという情報がないために、活動ができていないといったケースが多い。 その他方では、色々活動している方々が後継者がいないとか、担い手が減ってきているとかで、活動が広がっていかないといった部分もある。 このミスマッチの部分をどういう風に繋いでいけるか、人材をどう繋いでいけるかが重要。 サポートセンターは、その役割を果たせる場でもあるし、過去の学びの場を通じて、何かやってみたいという人達を繋いでいくことも、今まで以上に必要となってくる。 人材というものは市内に限らず、市外からもかき集めてくるという視点も大事で、そこを徹底して実施していかなければ、まちづくりの人材は増えていかない。 若い人達にまちづくりに携わってもらいたいとすれば、若い人達が活動したいと興味を持つ入り口が見つからないといけない。 例えば起業というもので、まちを使って、こんな事業をやりたいと提案してもらうという入り口を作ってもらって、そういった中で評価されたものについては、行政も合流していく。

	若い人達が自分たちのアイデアでやりたいと思うこと、それがまちづくりの活性化に繋がる。そういうものを応援していくのも人材育成の大事なポイントである。 そのためには、外にも門戸を開いて、富里市に対して色々提案してくれるような裾野を開いていくことが大事。 クラウドファンディングというものがあるが、これは特定のプロジェクトについて、垣根など関係なく、その取組を応援したいというものに寄附をしていく仕組みである。 そのようなイメージで、富里市の取組を外にもっと開いていく、入り口を開いていくということが大事になってくる。 またそういった人達を集めるためのツールとして、夜間であったり、オンラインであったりと意見があった。現状では、物理的なものが制約となってしまっている部分もある。 このコロナの影響を受け、色々なものが変化してきている。こういった動きも、これからのまちづくりに活かしていくべきという動きが強まっている。 人材を育てていく、巻き込んでいくという中でも、そういうツールを活かしていくことも必要。 あと、地域ポイントの部分では、意見であったように、メリットがないと参加に繋がらないということは現実としてある。 参加意欲が沸くような仕組みが必要。このポイント制度は、多様化しているので、メリットを膨らませていけるような視点が大事になってくる。
委員長	ありがとうございました。 それでは、情報の提供と共有グループの発表をお願いします。
Ｃ委員	―情報と提供と共有グループ発表・意見交換―
委員長	発表ありがとうございました。 今の発表に対して、他の点など、何か提案などありますでしょうか。 －その他特に意見なし－
アドバイザー	情報の提供と共有という部分は、何を実施するにも大前提とな

	る。御指摘いただいた通り、どういう情報提供、共有の在り方が必要なのか取捨選択していく、あるいは統合していくという部分があってもいい。 　他の取組とオーバーラップしている部分もあるので、こういう情報提供、共有の仕方を重視していくという視点から整理をして、特化していくことも考えていいと思う。 　その上で、目玉となる情報を伝えていくとか、既存の活動や取組を伝えていくとかは非常に大事である。 　ポイントは誰がやるのかということ。これを行政がやるとなると、結構難しい。人がいない、お金がないというところから始まり、そういう情報を集めて、整理して伝えていくことは、市民にできないか。 　様々な情報が必要だということはわかっている。その情報をどのように集めて、どのように伝えればいいのか、誰がやるべきか。もちろん行政としてもやるべきことはある。でもそれだけでは、発信、共有としては不足する。その辺をどのようにやっていけばいいのか、知恵を出していただきたい。 　それから役所内の情報については、役所も率先して提供していく。役所から出てくる情報は内容が難かったり、わかりにくかったり、あるいは分量が多すぎたりするところがある。こういったところがパブリックコメントなどにも響いてしまう部分である。 　どのように市民に情報を提供していくべきなのかということには少し工夫が必要。 　ホームページや広報誌の部分では、ほとんどの自治体が広報誌のデータをホームページに載せている。ぜひ御覧になっていただき、自分の市と比べてみて、良い部分、悪い部分を探してみていただき、どのような情報の発信のされ方が望ましいのかということも検討してみていただきたい。 　個人的に思っていることは、市の広報誌の中に、市民のページを作り、市民がその紙面を責任を持って作成することがあってもいいと考える。 　広報誌がなかなか難しいのであれば、市のホームページに、市民が作るホームページやサイトなどに飛べるリンクを貼ったりできると、もっと情報共有というものが進んでいくのではないかと考える。 　地域フォーラムや市民活動フェスタなど、色々な情報をお互いが

	発信したり、共有する場というものは、これまでも実施されてきている。これについても深掘りをしていけるかどうか。 市民活動の情報の発信の仕方として、よくあるパターンとしては、団体の情報、持っている情報を伝えるということ。これだけでは足りない。何が足りないのかというと、この先に向けたイメージが膨らまないからである。その情報に留まってしまうと、「素晴らしい活動をされていますね」で終わってしまう。それで終わるのではなくて、取組や活動に対して、「人がこれだけいれば、もっとこんなことができる」とか、「資金がこれだけあると、こんな事業にチャレンジできる」とか、「こんなネットワークができると、もっとこんなことができる」とか、これから先に向けたイメージが膨らむような情報というものを伝達していかなければいけない。 情報というものは常に、発信する側の「これを伝えたい」という都合で作られている。受け手側に立って、その情報をどう受け止めているかというイメージがなかなか膨らんでいない。だから常に発信する側の論理と都合で作られているから、受け手側からすると、「凄いことやっているな」でイメージが止まってしまう。「そういうことをやっていて、そういう可能性があるなら、自分達もこういうことにチャレンジしてみようかな」と、そういうイメージができるような情報でないと、共有という部分は進まない。 受け手を念頭に置いた情報の中身、その辺も工夫していくことが問われているように思う。 既存のイベントや事業も、ぜひその辺を工夫していくことが問われている。市民活動フェスタは、どこの自治体もトーンダウンしている。色々な活動団体が集まって、ブースを作って、活動を PR しているが、それだけで止まってしまっていて、輪が広がっていかない。もっと先に繋がるようなイベントの作り方に工夫が必要。 ネットワーク支援の充実というところで、色々な可能性があるが、社会福祉協議会との連携という部分で、どの自治体も悩みの種を抱えている。ボランティアをどこがコーディネートするかという課題である。 基本的には、社会福祉協議会の中のボランティアセンターがボランティアを集め、ボランティアを必要としているところとマッチングさせる。だが一方では、ここ１０年くらいで、協働というものが膨らんできている。ボランティアといっても、協働のほうでやっているボランティアと、社会福祉協議会がやってるボランティアと、

	別個になってしまっている。そうすると、窓口がわからなくなり、バラバラになったまま、昨年度にあったような災害に直面したりする。そうするとボランティアをどこが仕切ってやればいいのか、社会福祉協議会だけでできるかというと、それは厳しい。 　そのような状況がある中で、こういうボランティアのコーディネートを、トータルで見直していこうという動きも出てきている。 　これまで通りでいいという考え方ももちろんあるが、そういった課題もあり、市民活動というものが多角化してきて、どこがどういうコーディネートを果たしていくべきなのかということが、大きな課題になっている。トータルに、この辺の環境をどのように整えていけばいいのかも、現状の課題である。
委員長	ありがとうございました。 　それでは、市政への参画・市の体制グループの発表をお願いします。
Ｄ委員	―市政への参画・市の体制グループ発表・意見交換―
委員長	発表ありがとうございました。 　今の発表に対して、他の点など、何か提案などありますでしょうか。
Ｅ委員	パブリックコメントと公募委員の問題は、市民としては、協働のまちづくりとかけ離れているように受け止められているのではないかと危惧している。というのは、色々な審議会がまとめたものを、パブリックコメントという形で募集をするが、市民はどのように出したらいいかわからないのではないか。 　また、その意見がどのように受け入れられたかということや、どのように報告されたか市民はわからない。 　やはりここは、まちづくりという観点から、もう一度市民に対して、パブリックコメントの意味と、公募委員はまちづくりの重要な要素だということを伝えなければいけない。 　市民の意見を行政に反映する点では、行政に関心のある人が公募委員になればいいというわけではない。本来ならば、申し込みが多く、選考に困るくらいにならないと、協働という部分に繋がっていかない。

	今後はここ１０年間の反省に立って、この２点については、協働のまちづくり推進委員会でも検討して、市民に周知していかなければいけない。
委員長	他に意見はありますか。 ーその他特に意見なしー
アドバイザー	今の発表で、職員は現場を知る必要があるという趣旨のものがあったが、同感である。職員研修など実施する時に、どうしても職員の方は、業務を遂行していく中で、事業フレームありきで考えてしまっている。国の仕組みの基、こういう事業をやるとか、昨年までこうであったので、今年度も来年度も同じことをやる前例踏襲などがそうである。それをしっかりやっているから、行政としてはしっかりやっていると認識してしまう。 一方で市民が見ているのは、事業フレームを見ているのではない。 市民は地域の現場で生活しているのであって、地域にどういう課題や問題があるのを見て、感じたことを訴えていたり、もっとこうするべきだということを提案している。 協働がうまくいかないというのは、共通の土俵に乗っていないから。それぞれがそれぞれの立場、見方で発言しているから。協働を進めていくには、両者が共通の土俵に乗っていくということをもう一度考えていく必要がある。そのための出発点となるのは地域の現場である。そこに両者が相容れる形で、今何が問題、課題なのか、その課題解決に向けて、行政は各部署で何をやっているのか、地域ではどんな取組をされているのか、これをしっかり洗い出して、共有していく。そこが協働の出発点である。 そういうプロセスを踏まないで、それぞれが提案したり、自己主張してしまうと、まとまることもまとまらない。行政職員は地域で何が取り組まれているかも知らない。逆に市民のほうも行政が何をやっているかわからない。お互いが知らないまま敬遠してしまっている傾向が非常に強い。既存の取組でそれぞれがどんなことをやっているのか、その中で、できていること、できていないことをしっかりあぶり出して、できていないこと、取り組めていないこと、足りていないことを深掘りして共有していく。そこから始めて、誰が

	何をするべきかという検討が始まる。それはどこに任せればいいのか、もっと立場を越えた連携をもって対応していくべきか、これを考えていくのが協働のプロセスである。このプロセスがどこでも、まだまだ構築しきれていない。 　多くの役所の場合は、このプロセスを踏むだけの、人もいないし、お金もないし、時間もない。だから行政でやってしまったほうが早いだとか、逆にこれは市民で対応してくれというようになってしまっていることが実情である。 　そういうプロセスを丁寧に踏んで、お互いに対話を重ねながら、できるところから一つひとつを作り出していく、そういう方向性が問われているように思う。 　やり方や手法は色々あるが、円卓会議というものもその手法の一つ。 　以前に困難を抱えた子供たちを巡る協働事業の話をしたことがあったが、役所はいくつかの部署で対応事業や取組をやっている。 　その一方で、地域でも、子ども食堂をやったり、学習支援をやったりと、それぞれがそれぞれで事業を展開している。 　でも、それで課題は克服されているのかというと、決してそんなことはない。全然カバーできていない部分や連携しなくてはいけないことは沢山ある。それをしっかり丁寧に探っていく。これを円卓会議などの手法を通じて、深掘りしていき、やれることを考えていく。 　そういう手法は行政が音頭を取ってやっていくパターンもあれば、地域にある協議会や団体がやってもいい。どこが主催となり、音頭を取ってもいいが、いずれも共通の土俵を作って、プロセスを膨らませていくことが大事。 　テーマはなんでもいいので、円卓会議のような手法を、役所は率先して取り入れ、話し合いの場を作っていく。役所の中でもこのような雰囲気になってくると、協働というもが大きく変わってくる。 　立場の異なる者同士が、相交わる、そして課題を深掘りする、そういうプロセスをしっかり作っていくことが、これから重要となってくる。
委員長	ありがとうございました。 　短い時間ではありましたが、各グループの検討内容について、全体共有、意見交換ができました。

	また、関谷教授から各グループにアドバイスもいただきましたので、今一度、課題を整理することができるかと思います。 （３）関谷教授によるアドバイス
委員長	それでは、次第３、関谷教授によるアドバイスに入ります。 関谷教授から、今日の全体的な講評及び次回の課題解決の検討に向けてのアドバイスをお願いします。 関谷教授、よろしくお願いします。
アドバイザー	今日御提案いただいたことは非常に大事な論点だと思う。今後のワークショップの中でも、それらをさらに深掘りしていく必要がある。 冒頭で話したが、それぞれが御提案されていることを、誰が、どういう風に進めていくべきなのかという深掘りをさらに続けていただきたい。 それらが見えてきた中で次期計画の柱というものが改めて見えてくる。その柱は、これまでの計画と少し変えてもいい。 色々議論が出ている中で、少し強弱をつけていくだとか、あるいは事業を統廃合していくということも考えられる。 その辺も含めて、まずはこの部分を徹底させるべきではないかという強弱の付け方というものも次回に向けて、検討いただけたらと思う。 これまでは色々なところに光を当ててきて、色々な動きを少しでも小さなところから作り出そうという狙いで、条例や計画を作ってきた。それらがいい形でいままで進んできている。 今後はそれらを踏まえながら、もっとここに力を入れていくのが富里市らしい協働なんだというところが考えうるところ。 そういった強弱、力の入れどころというのを検討いただけたらと思う。まだまだ色々光を当てるべきところはあるが、引き続き議論し、考えていただければと思う。
委員長	ありがとうございました。 それでは、これで本日の議事を終了します。 進行を事務局に引継ぎます。 御協力ありがとうございました。

	次第４　その他 その他でございますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。 －その他特に意見なし－ －事務局より次回日程の連絡－ （閉会）